

研究・実践レポート

平成29年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会授業公開校の取組

よりよい生活や社会の実現に向けて、自ら課題を見つけ、
解決する力を育む学習指導の在り方

市原市立国分寺台中学校 教諭 ^{きくち} 菊池 ^{りょうすけ} 亮助



1 研究主題について

市原支部では、千教研技術・家庭科部会の研究主題を受け「よりよい生活や社会の実現に向けて、自ら課題を見つけ、解決する力を育む学習指導の在り方」という研究主題を設定した。急速な社会の変化に対応するためには、自ら課題を見つけ解決できる力を身につける必要がある。基礎基本を身につけて、ものづくりに必要な実践的な態度や技術、いわゆる「生きる力」を育むために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点で基礎基本の定着と活用法の研究を行うことにした。

技術分野では、市原市が教育大綱で掲げている「思い切り学べる教育環境づくりと支援体制の充実」に着目し、市内のどの学校でも「自ら課題を見つけ、解決する力を育む」市内全校の教育レベルを保てるようにするには「どのように学ぶか」を中心に研究を行った。

2 研究仮説

- (1) 市内各中学校間での指導内容の共有化を図り、子供たちの姿や地域の現状等に基づき、各学校にあった指導内容を編成することにより授業の質が向上し主体的に取り組む姿勢が培われるであろう。
- (2) 市原市教育センターなどと連携して ICTなどを授業に効果的に取り入れれば、対話的な学びを通し課題解決力を育むことができるであろう。
- (3) 中学校区内の小学校と連携をとり、プログラミングの出前授業などを行い、各発達段階での学習内容を明確にすることにより中学校で、より発展的な課題に取り組めるであろう。(小学校から中学校へ途切れの

ない学びができればより多くの課題に取り組めるであろう。)

3 実践内容

(1) 「生物の育成」

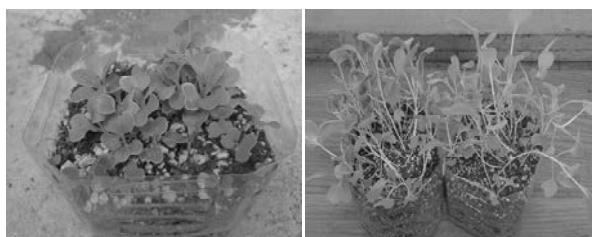
どの学校でもできる栽培の情報共有化

ア 実践例1 袋栽培

ポリ袋を使用しての野菜栽培。大根栽培においては、路地栽培にはやや劣るが良いものができる。大根は大根の味噌汁。葉の部分はツナといっしょに油炒めをして2時間の調理実習をすることができた。

イ 実践例2 ペットボトル栽培

短期間に収穫ができ、家庭で利用頻度が高く、栽培期間が短く実習に適している小松菜の栽培を行った。栽培スペースの関係でペットボトルを半分に切り、市販の野菜の土を利用し、技術室での室内管理を行った。授業以外のかん水は清掃時に行い、週一回の授業で観察記録を記入させた。室内で葉物野菜を育成すると、光量の関係で葉の色の濃淡の差がよくわかった。また、害虫については半密閉空間のため、殆ど被害が無くきれいな葉の状態で成長させることができた。比較的短期間に播種から収穫までの作業ができ、成長も早い。



ペットボトル栽培の例

(2) タブレット端末を活用した授業の効果の研究

本研究では iPad 18 台を市原市教育センターから借用して取り組んだ。

技術・家庭科だけでなく、市原市教育センター指導の元で iPad を使った実践が市原市情報処理教育部会からも出されており、タブレット端末について次のような効果があることが示された。

- 効果1 小さいものを大きく見せる。
- 効果2 長時間かかるものを短時間で見ることができる。
- 効果3 一瞬で終わってしまう現象でも、スローで見ることができる。
- 効果4 実際に見たりさわったりできないものでも疑似体験ができる。
- 効果5 教材の共有ができ、何度でも繰り返すことができる。



タブレット端末を使用した授業の様子

授業にタブレット端末を導入する事が最終目的ではなく学習のツールとして興味を持たせたり、思考を深めたり、自分の考えを伝えたりするために活用できるように授業力を高めていく必要がある。

(3) 小・中学校のプログラミング学習の連携

ア 本時の指導（小学校への出前授業）

- ・自分の意図した動きになるように、プログラムを改良することができる。（問題解決能力）
- ・一人一人のプログラムの良さや違いに気がつくことができる。（学び方やものの考え方）

イ 技術科教員による小学生向けプログラミ

ンミング研修（本年度8月実施）

- ・中学校技術科実技研修で小学生向け Scratch の研修を行った。

ウ 技術科教員による小学校プログラミング出前授業（本年度11月実施）

- ・小学校連携授業の取り組みの中で国分寺台地区をモデルケースで行った。

エ 中学校プログラミング内容研修

- ・小学生向けのプログラミング内容と連携できる中学生向けの内容の検討を行った。

4 成果と課題

指導内容の共有化においては、技術科の免許保有者が配置されていない学校の生物の育成の実習授業の実施率が上がった。また、実習を行っていた学校でも生徒の取り組みが積極的になった。

市原市教育センターと連携してタブレット端末を活用した効果的な授業の研究も行った。最初はタブレット端末を使うことが目的になりがちな授業であったが、回数を重ねるたびに授業のツールとしての効果的な活用が見えてきた。継続して授業に取り入れる事ができれば、効果的な活用方法が身につく、さらに深い学びにつながられると考えられる。

市原市教育センターと連携し、小学校にプログラミングの出前授業や提案をするという取り組みでは、次のことを最終のねらいとしていた。

- ・プログラミング学習が必修化になるにあたり困っている小学校と連携し、身につけるべき学習内容の学校間格差を減らす。
- ・中学校技術科教員が小学校6年生に出前授業を行う事で、プログラミングの基礎レベルが向上して、中学校での学校間格差を軽減し、情報学習に円滑に接続できるようにする。

11月にモデルケースで国分寺台地区の小学校で出前授業を行った。

新しい教科書を見て、小学校段階での学習内容が市原市教育センターや情報部会が目指すものと技術科部会が目指すものとすりあわせをする必要があり、今後検討しなくてははいけない。

研究・実践レポート

平成29年度千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会授業公開校の取組

よりよい生活や社会の実現に向けて、自ら課題を見つけ、
解決する力を育む学習指導の在り方

市原市立国分寺台中学校 教諭 こかぶ はなえ
小甲 はな恵



1 はじめに

平成29年6月16日に、千葉県教育研究会技術・家庭科教育部会研究大会が市原市立国分寺台中学校で開催された。開催にあたり取り組んだ実践について紹介する。

2 研究仮説

生活の原点である伝統文化に関する知識や技術を習得することは、文化をつなぐ気持ちや態度を育み、よりよい生活や社会の実現のための新たな実践に向かう力になるであろう。

3 研究内容

家庭分野の各内容に関連する「伝統文化」に関する指導

- (1) 家族・家庭と子どもの成長
 - ・さまざまな力が育つ子どもの伝承遊び
- (2) 食生活と自立
 - ・日本の食文化
 - ・盛りつけと配膳
 - ・和食に関する基礎・基本（だし）
 - ・地域に伝わる郷土料理
 - ・行事食の目的
 - ・伝統的な加工食品
- (3) 衣生活と自立
 - ・和服
 - ・ふろしきの活用
- (4) 住生活と自立
 - ・伝統的な住まい

4 実践例 1

- (1) 題材名
「伝統文化を受け継ぎ、生活に生かす
～ふろしきの活用～」

(2) 本時の展開

- ア 見出す
 - ・伝統的な道具であるふろしきの歴史や利便性を知る。
- イ 深める
 - ・ふろしきで、教科書やジャージを包む体験をする。
 - ・「結ぶ」ができる。
 - ・「包む」ができる。



- ウ まとめあげる
 - ・資料「もったいない」を読み、ふろしきと環境との関係を確認する。
 - ・ふろしきの活用を学習した感想を記入する。

(3) 授業の感想

- ・「真結び」ができてよかった。とても大事な結び方だということを知った。結び方によって、便利な生活になることもわかった。
- ・いろいろな結び方があるのがわかった。きれいな模様のふろしきを探して、トートバッグのように使えたらよいと思う。
- ・かばんに入れておくと便利なので、家族に伝えてみようと思う。

5 実践例2

(1) 題材名

「市原の郷土料理・鳥雑炊（とりどせ）をつくる」

(2) 本時の展開

ア 見出す

- ・市原（千葉県）の特産品、郷土料理について、前時の振り返りをする。

イ 深める

- ・調理の手順と、作業の分担を確認する。各自、分担したことに責任を持って調理する。

ウ まとめあげる

- ・市原市の郷土料理「とりどせ」ができた背景や受け継がれた良さを話し合う。「とりどせ」の語源、歴史の説明を聞く。
- ・実習での気づき、感想、郷土料理についての自分の意見を記入する。

(3) 授業の感想

- ・親せきが集まった時に作ったと聞いたが簡単な材料なので、家族に作ってあげたいと思った。
- ・昔の人は、飼っていた鶏を使うことで栄養を摂っていたと初めて知った。かわいそうな感じもするが、軟骨まで使うなど、大事に食べたと聞いた。今は、残しても平気で、ゴミも多くなるが、昔の人の生活のほうが、感謝の気持ちがつまんでいると思う。

6 実践例3

(1) 題材名 「幼児の遊びが育むもの」

(2) 本時の展開

ア 見出す

- ・昔から伝わる遊びを考えてみよう。調べたり、家族に聞くことにより確認。おもちゃがある場合は持参する。

イ 深める

- ・伝承遊びを体験し、どのような力をつけるのかを考え、班員と話し合い、ワークシートに記入する。



ウ まとめあげる

- ・遊びにより、幼児に身につくこと、伸ばす力を発表する。
- ・ふれあい体験に活用できる「伝承遊び」を考え、準備計画に加える。
- ・授業の感想を記入する。

(3) 授業の感想

- ・昔の遊びも、おもしろいと思った。小さい子どもにいろいろな力をつけるのが遊びで、いい意味の競争になったり、コミュニケーションがとれたりする。
- ・しりとりや影ふみ、おにごっこ、けいどろ、だるまさんがころんだなど、道具がなくてもできる遊びが多いこともわかった。

7 成果と課題

(1) 成果

- ・授業のまとめでは、多くの生徒が新たな発見をし、実生活に少しずつでも取り入れていきたいという前向きな考えを持つことができた。
- ・次期学習指導要領でも「伝統文化」の伝承について、更に幅広くとりあげられることになる。関心を持ち授業に臨む生徒が多かったという点は、この研究が主体的な学習への第一歩として、成果を得たといえる。

(2) 課題

- ・授業における知識や技術の習得に留まらず、社会への関心や自ら課題を見出す意欲、探究心を更に高める必要がある。
- ・学習課題の設定、授業形態の工夫、ICTの活用などの工夫を通し、新たな実践に向かう力につなげていきたい。